

# たぐり

TAKUSUI  
No. 713

3

March 2016

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



ワカメ養殖 (南あわじ市)

## 第19回 山田記念賞表彰式・祝賀会 JF南あわじ 小学生がワカメ加工体験

《今月の海上安全標語》 ～ 無事生還！ ～

もしも海中に転落してしまったら…。

慌てず平常心で、そして絶対にあきらめないで下さい。その意思が助かるための原動力となります。

**落ちたとて 「必ず帰る」と 強い意志** では、今月も安全操業で！

# ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「直しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる)

## 四十七年前にタイムスリップ！

兵庫県漁業共済組合 漁業経営対策推進室 室長 猿橋 孝治



いよいよこの三月末をもって退職です。県漁連と共済組合あわせて四十七年間、皆様には本当に長い間お世話になり有難うございました。

私は福井県のおおひ町の出身です。大飯原発のある所で、西隣には高浜原発、少し東に行けば美浜原発や敦賀原発があります。東北の大震災以降色々ありましたが、人間って本当に勝手なものです。正直申し上げて、今の関西圏の発展の半分位は大飯や高浜原発のおかげである、私は思っています。ですが、いざとなると「とめる」とめるの大合唱になる。前大阪府知事は「再稼働を容認する」というコメントを残しましたが、この発言には非常に腹が立ったものがある。長年電気を送ってもらっている立場にある者が、再稼働を「許し認めてやる」とは何事か！と。ただ、人間の考え方は千差万別、こういうことを言っている私自身が勝手なのかも知れませんが、

少々脇道にそれましたが軌道修正します。私は昭和四十四年に当時の内海漁連に就職し、資材二課(共取課)に配属されました。入会して二日目、資材一課長から「おい猿橋君よ、明日からアバシリ?に行くので、しばらく帰れないからそのつもりで」という指示がありました。そこで、いくら私のような田舎者でも、高倉健の網走番外地くらいは知っていました。「ワオッ早速北海道に行けるんだ」と思って内心ほくそ笑んだものです。翌朝、新聞地駅から電車に乗りましたが、何と最終的に着いた駅は北海道ではなく、所要時間わずか二時間くらい「山電網干駅」だったのです。勿論、当時は網干という地名など知る由もありませんが、単に「アバシリ」を「アバシリ」と自分に都合のいいように聞き違えていただけの話です。ただ、この時の網干漁協の共取所に足を一歩踏み入れたあの時の感動は今でもしっかりと憶えています。そこには黒ノリと大量の青ノリが入り混ざった非常に強烈で、すばらしい香りが充満していたのです。そうです、当時の網干や赤穂といえは県下ノリ養殖の二大産地で、内海漁連は網干漁協の全面的なご協力を頂きながら、当地で入札会を開催していたのです。話は変わりますが、福井県の若狭地方は海水浴場でも有名です。私はそのギンギラギンに輝く沖繩の海のような所から神戸に出てきたのですが、そこで初めて間近に見た瀬戸内海の水が現在の垂水漁港の岸壁に立った時でした。何と僅か三メートルの水深であるにもかかわらず、どす黒く汚れていて底が殆ど見えなかったのです。ゴミはあちこちに浮いているし、なぜか潮風も強烈に油臭く、とても若狭の海とは比べるにもおぞましい光景だったのです。しかし、この頃はありとあらゆる魚介類が沢山獲れていましたし、丁度この頃から浮流し式のノリ養殖が本格化してきましたが、極端な言い方をすれば、どんなノリ網であっても、張ってさえいれば黒いノリが採れた時代だったのです。あれからは半世紀、瀬戸内海は本当にキレイになりました。いや、キレイになり過ぎたのです。逆に今となってはあの頃の、青ノリが大量に繁茂し、正直言って「非常に汚かったけれども豊かであった海」が非常に恋しく思えるのです。中国の古い格言にあります。「水清ければ魚棲まず」と。キレイになり過ぎる前に、何故もっと早くこれに気づき手が打てなかったのか、今になって思えば最大の不覚である。

## CONTENTS

No.713 March, 2016

- 2 ようこそ
- 3 イカナゴ漁 始まる  
北方領土の日記念大会
- 4 JF森 学習小学校児童らがノリ加工工場を見学  
瀬戸内法改正記念シンポジウム
- 5 兵庫JCC研究交流会  
全国漁業協同組合学校卒業生再教育研修会
- 6 第19回「山田記念賞」表彰式・祝賀会
- 7 JF南あわじ ワカメ養殖体験学習
- 8 JF五色町 浜でカキ試食会
- 9 AEDをJF仮屋荷捌所に設置  
カキ養殖 先進地視察
- 10 高砂市漁連 海難事故「ゼロ」を目指し講習会  
海難事故をなくそう
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う  
大輪田塾だより



### 表紙の言葉

#### 「わかめ養殖」(南あわじ市)

日本人は古来より多くの海藻類を利用してきました。なかでも、ワカメは、大宝律令(8世紀)、延喜式(10世紀)にも登場し、海藻類の総称である“布(め)”が、時にワカメ自体を指す言葉として使われるとともに、メカブも延喜式では“海藻根(まなかし)”として、葉部とともに重要な食品として挙げられています。また、ワカメは「万物に先んじて芽を出し、自然に繁茂する」ものとされ、和布刈(めかり) 神事を行う神社では、ワカメを刈り神前に供えるための神饌として使われています。ワカメ、ノリ、ヒジキ、ホンダワラ、コンブなど、海の幸を有効に利用する先人からの知恵を現代につたえる海藻は、我が国が誇る食文化の1つです。



### イカナゴ漁始まる！ 今年3月7日に解禁



春の訪れを告げるイカナゴ漁。今年3月7日(月)に解禁されました。

昨年末は水温が高く、昨年12月末の産卵が遅れたことが影響したため、例年より遅く試験曳きが実施され、協議の結果、昨年より9日遅い解禁となりました。ただ、生育状況は良く、解禁当初からくぎ煮に適した35ミリ前後のサイズが水揚げされており、県下の関係漁港は待ちわびた解禁に活気づきました。

写真は、3月9日(水)の姫路市妻鹿漁港の様子。この日は、雨模様で冷え込みましたが、朝8時前からJF坊勢所属の漁船が次々に接岸

し、順調な水揚げが見られました。浜ごとで水揚げに差はあるものの、関係者は今後の海況に期待を寄せています。



すばやく積まれるイカナゴ



これからの漁に期待したいです

## “先人たちが築いた北方四島は我が国固有の領土です” 2月7日は「北方領土の日」 記念大会開かれる

北方領土は、私達、日本国民が先祖伝来の地として受け継いできたもので、歴史的事実や国際法上からも我が国固有の領土です。敗戦色が深まる1945年8月9日、ソ連は日ソ中立条約に違反して対日参戦し、日本がポツダム宣言を受託した後の9月5日までに北方四島を占領し、翌年には四島を一方的に自国領に編入し、四島に居住していた日本人約1万7千人を強制退去させました。その昔、北海道で北方領土に関する全国大会があった折、根室漁協婦人部長が「国後は一歩海に入ればワカメが足にからみつき、カレイや貝類など資源に恵まれ誰でも獲れた。生活は地味だったけど、みんな活き活きしていて家計も豊かだった」と島での生活を振り返り、殆どの財産を捨て、強制引き揚げせざるを得なかった当時の事を、怒りと悔しさを涙を滲ませながら話されていた姿が思い出される。以来70年、ソ連、ロシアによる北方四島の占拠は続いています。

北方領土返還実現への外交交渉を後押しするため、世代を超えて国民一人ひとりがこの問題を正しく理解し、関心を高め、国民世論の結集を図ることが大切です。そうした認識のもと、政府は昭和56年1月の閣議で毎年2月7日を「北方領土の日」と定め、全国都道府県では県民会議が結成され、毎年、記念大会を実施しています。本県でも北方領土返還運動兵庫県推進会議が主催し、2月7日(日)、神戸市内のホテルで「北方領土の日」記念県民大会が開催され、兵庫県青年会議所の会員や漁業団体役員ら約200名が参加しました。大会は主催者挨拶に始まり、平野正幸県知事公室長の来賓挨拶、北方領土作文コンクール表彰式、下條正男拓殖大学教授による「侵され続ける日本の国家主権」北方領土、竹島、尖閣問題を考える」記念講演があり、最後に山田隆義JF兵庫漁連会長が決意表明を行い閉会しました。





## 地域の産業から自分たちの故郷を知ろう

### 学習小学校児童らがノリ加工場を見学

「地域の色々な産業を見学し、自分たちが住んでいる町に理解を深めよう」と社会学習の一環で、2月5日（金）、淡路市立学習小学校の児童がJF森を訪れ、ノリ生産工程等を見学しました。

この日は2年生2クラス46人が午前10時から漁協事務所2階で、JF兵庫漁連兵庫のり研究所小西 好統括代理、森重 雄大主任研究員から、ノリ糸状体や採苗、収穫までの作業行程についての話を聞いた後、グループに分かれ、同JF 蔵水産加工場でノリが製造される一連の工程を見学しました。糸状体や力キ殻から採苗するといった話は少し難しかったようですが、沖に浮かぶ作業中の「もぐり船」を見たり、加工場の大型乾燥機は、1時間に6,500枚のノリを生産すると聞いたりすると驚きの声が上がりました。同加工場で案内役を務めた森裕太さんは、製品ラインを流れる出来たてのノリを一枚ずつ渡し、「海苔はよく食べますか?」と質問したところ、児童らは「手巻きにして食べている」「味付け海苔が大好き!」「もつとパリツとした方が良い」など色々な答えのほか、「大江のりをよく食べてるわ!」と地元の強みをしっかりと表現していました。子ども達は、ノリ加工場見学を楽しく過ごせたようで、早速、場外で体験ノートを広げる熱心さでした。

今回、同JFが見学先となったのは、2年ほど前に作られた「淡路ふるさと教育副読本」に紹介してある「淡路が生んだ偉人たち」の中に、同JF 故森吉一氏（元組合長）が「淡路で初めてノリ養殖を成功させた人」と記述紹介されていることから、先生方もノリ養殖産業に関心が高く、この度の訪問になりました。今回、好評だったので、今後、高学年にも同JFを訪問させてあげてほしいとの話もあるようです。

（文：兵庫県水産振興基金）



地元で生産されるノリについて理解を深めました



沖の作業も見ることが出来ました

## 瀬戸内法改正記念シンポジウム開催



獲量の回復で、もう一つは優れた景観を生かした人との交流の場としての活用である。今後、湾灘ごとの協議会で、いろいろな意見を聴きながら県の計画を作る。豊かで美しい瀬戸内海が再生できることを期待している」と挨拶した後、法改正に尽力した兵庫県漁連など23団体に感謝状が贈呈されました。

続いて、根本桂三環境省閉鎖性海域対策室長が改正法の概要とあわせ、先行して昨年2月に策定された国の基本計画（期間10年）の内容や法の理念を実現するために環境省が取り組んでいる調査研究事業の説明がありました。最後に講演した水産大学校 鷲尾 圭司理事長は、JF林崎の職員としての勤務経験などを基に、貧栄養化時代に変化した瀬戸内海の課題に対する処方箋を提示され「従来は国の一律規制だったが、これからは12ある湾灘ごとに創意工夫する必要がある。地域みんなの知恵を出し合うことが大切」と訴えました。

（文：兵庫県水産振興基金）

昨年9月に瀬戸内海環境保全特別措置法の改正法が成立したことを記念したシンポジウムが2月8日（月）、神戸市内で開催されました。

瀬戸内海沿岸13府県22市でつくる瀬戸内海環境保全知事・市長会議が主催したもので、法改正に関わった国会議員や漁業関係者約260人が参加し、改正法の理解を深め、今後の施策などを考える場になりました。

改正法は、汚染された瀬戸内海をきれいな海に回復するための水質規制重点の施策を転換し、水産資源が豊かな海に再生することを目指すもので、ノリの色落ちや漁獲量の減少を改善するのが重要な狙いです。

シンポジウムでは、同会議議長の兵庫県 井戸 敏三知事が「改正法には2つの目標がある。1つは4割に落ち込んだ漁



鷲尾理事長の講演の様子



# JF坊勢の取組みについて学ぶ 兵庫JCC研究交流会を姫路市で開催

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）では、農業・漁業・林業・生協の各協同組合がお互いの事業や活動を学習・共有化して、今後のさらなる協同・連帯を促進する目的で、毎年、兵庫JCC協同組合研究・交流会を開催しています。今年は、漁業をテーマに姫路市で開催し、各協同組合から集まった関係者約40名が、JF坊勢の施設などを見学しました。

妻鹿漁港から坊勢島へ渡った参加者は、JF坊勢会議室で研修を行いました。同JF岡田 武夫組合長は「組合員も減少傾向であるが、基幹産業である漁業を支える取組みや島の生活のことが少しでも分かって頂けたら」と挨拶され、森光 則参事がJF概要・事業内容を説明したほか、中間育成施設を見学しました。参加者は、漁船が並ぶ風景や中間育成施設内のヒラメな



このほか、JF兵庫漁連水産加工センターで、原料からパック詰めに至る作業工程を見学し、「明石ダコのやわらか煮」などの試食を行ったほか、JFぼうぜ 姫路とれとれ市場では、水槽に泳ぐ様々な魚や加工品などの見学し終了しました。参加者は、昼食も同市場のバーベキューコーナーで新鮮な力キを味わうなど、坊勢の魅力を十分に堪能した1日となったようです。

（文：兵庫県水産振興基金）



水産加工センターの作業を見学

## 全国漁業協同組合学校卒業生再教育研修会 開催

～協同学苑に関係者約30名が集まる～



挨拶を行う吉田校長

昭和16年に創設されて以来、2,600人以上の卒業生を輩出している全国漁業協同組合学校（吉田博身校長）の平成27年度全国漁業協同組合学校同窓会東海・近畿・中国地区報告会及び全国漁業協同組合学校卒業生再教育研修会が、1月30日（土）・31日（日）の2日間にわたり三木市の協同学苑で行われました。この取り組みは、同校と組合学校同窓会が、近隣の同窓生の連帯を図るため、また、同窓生の生涯学習の一環として開催されたもので、同窓会員や同校関係者、来賓をはじめJF兵庫漁連など近県JF関係者、大輪田塾生ら約30名が集まりました。

校歌合唱ではじまった報告会は、吉田校長、同窓会 高橋 忠志会長（JF全漁連）、来賓のJF兵庫漁連 山田 隆義会長の挨拶に続いて、各県同窓会支部の活動や同校の運営状況などが話され、引き続き研修会が行われました。（別表参照）研修の最後には、協同学苑内にある史料館を訪れ、協同組合の変遷や賀川豊彦氏の資料が展示される同館で、コープこうべ職員から説明を受けて、協同組合への理解を深め閉会となりました。

英国の「ロッジデール公正開拓者組合」記念館をモデルにした史料館



英国の「ロッジデール公正開拓者組合」記念館をモデルにした史料館

（文：兵庫県水産振興基金）

講演名	講師名	
《とれぴち》ひょうご地魚水産プロジェクト	生活協同組合コープこうべ 店舗商品部水産統括・チーム課長（兼任）	北林 孝元
兵庫県における沿岸漁業の課題と対応	兵庫県漁業協同組合連合会 専務理事	山口 徹夫
沿岸漁業の課題とこれからの資源管理のあり方	東京海洋大学 海洋政策文化学科 准教授	工藤 貴史
日本人が知らない漁業の大問題	鹿児島大学水産学部 教授	佐野 雅昭

（敬称略）



## 第19回 「山田記念賞」表彰式・祝賀会 開催

～本県水産業の発展に貢献された3名と  
全国で高く評価を受けた1団体が受賞～



のです。

今年も水産振興基金主催による同賞表彰式および祝賀会は、2月19日(金)、神戸市内のホテルで開催され、県・漁協等の関係者ら約90名が出席しお祝いしました。

本年度受賞者は、水漏進様(JF赤穂市)、中尾博満様(JF南あわじ)、伊藤誠一郎様(JF但馬)の3名と、空津漁業協同組合かき養殖同業会の1団体で、当基金井戸敏三会長(兵庫県知事)が受賞者・団体へそれぞれ「天与」と命名された「男女漁業者立像」レリーフを贈呈しました。山田隆義理事長が主催者挨拶をされたあと、兵庫県井戸敏三知事は「受賞された

「山田記念賞」は、永年にわたり大きな夢と希望を抱いて本県水産業の発展に尽くされた故山田岸松氏を偲び、その功績を記念するため平成3年に創設されたもので、水産業の経営、技術に優れ、多年にわたり本県水産業の振興に貢献し、その功績が認められた方々に贈られるも



井戸知事から受賞者へレリーフが手渡されました

皆様には、それぞれの地域、分野で今後ともさらにご活躍されることを期待します。県としてもこれまで以上に水産業の振興を図っていききたい」と挨拶され、あわせて「暖冬に海の幸も驚くも北から南兵庫の海けなげ」の歌を贈られました。また、受賞者を代表して水漏様から謝辞がありました。

このあと、東根壽副理事長(JF淡路島岩屋)の開宴挨拶に始まった祝賀会では、参会者一同、受賞者の荣誉をお祝いし、終始華やかな雰囲気にも包まれるなか、JF兵庫信漁連 山田 峰人会長が中締めめの挨拶を行い幕を閉じました。(文：兵庫県水産振興基金)



【山田記念賞受賞者】(前列左から)山田理事長、水漏進様、中尾博満様、伊藤誠一郎様、かき養殖同業会 吉田政義会長、井戸知事



# JF南あわじが

## ワカメ養殖体験学習を実施

JF南あわじ(小磯 富男組合長)は、南あわじ市立辰美小学校5年生21名を対象に、2月25日(木)に同JFワカメ養殖青年会の種苗部 西田 和伸部長をはじめとするメンバーによる指導のもと、ワカメ養殖体験学習を行いました。これは、毎年行われているもので、児童らが、沖での刈り取りと加工場で湯通しから冷却、芯切り、塩絡め、脱水



素早く作業が出来るようになりました

など一連の工程を体験するものです。体験は、まず、2隻の船に分かれて乗船し、鳴門海峡大橋が望める漁場で刈り取り体験を行いました。現場に着いた児童らは、自分たちが12月に種付けと沖張り作業体験を行ったロープに、2ヶ月あまりで身の丈近くに成長したワカメを見て歓声が上がっていました。鎌の取り扱いについて注意を受け、最初は緊張気味に刈り取っていました



次々に釜へワカメを入れました

が、慣れるのが早く、次第に素早く作業が行えるようになりました。天気にも恵まれ、波もなく穏やかであったためか、作業中盤からは「楽しい」との声が聞かれました。

加工場では、児童らは5人程度のグループに分かれ、加工工程を順番に体験しました。90℃近い湯釜に原藻を送り込むなど、それぞれの作業を漁業者の指導のもと楽しそうに行う児童らの姿がありました。最後は、この日作業をしたワカメを皆で袋に詰めて終了しました。

同JFのワカメ養殖は約50年の歴史があり、昭和50年代には1漁協(当



直ぐにコツを掴んだ子どもも多かったです

時の丸山漁協)で7〜8千トンを生産する全国有数の産地でした。その後は輸入品に押され、生産量も約3分の1にまで落ち込むなか、危機感を募らせた若手生産者らが、「ワカメ養殖を地域に密着したものに…」と、約20年前から地域の小学生を対象にこの取り組みを始めました。この日の児童の多くは、漁業に触れる機会がないように、船に乗って移動することも新鮮であったようです。地元の産業であるワカメ養殖への理解と、将来の後継者育成も視野に入れて、この体験学習はこれからも続きます。

(文：兵庫県水産振興基金)



# 活いきJF五色町 シングルカキや巨大壁画

## “やや小振り!でも上品な味わい” 浜でカキ試食会



壁画下絵描きはひと休みして舌つつみ

に何か出来ることをと検討するなか、ヤンマー船用システム(株)の紹介で広島に行き、試験的に始めたとのことです。

福島会長は「カキの成長に合わせて籠数を24個(3段×8台)まで増やした。11月下旬、水温が18度を切り、殻の成長が止まったようで心配したが、中身はしっかり成長し、味も五色の海のものになった。このカキ特有の殻の丸さは、漁船の出入り波や風波で提灯籠が

最近、都市圏で若者向けにワインを片手に生カキを味わう「オイスターバー」が注目されてきており、播磨・淡路の漁協青壮年部でも漁業経営の多角化に向けて、これらレストランが扱いやすい「シングルシードオイスター」の養殖に関心が高まってきています。なかでも、JF五色町青年部「初潮会」(福島寛之部長、部員9人)は、昨年10月から鳥飼漁港内でシングルシードオイスター養殖試験に取り組んでおり、その成果を確認するため、2月15日(月)に関係者

による試食会を同JF(鳥飼浦)荷捌所で行いました。

試食したカキは殻長8〜9cm位でやや小振りですが、身入りはよく、味は「くせが無く上品で優しい」と上々の出来。これは広島県宮島の水産会社から3mm大のシングルシード種カキ1、2000個を購入し、漁港内の2箇所に延縄式でブイを浮かべ、提灯籠6個を吊してスタートし、約3ヶ月で成貝にしたもの。きつかけは、底曳き漁の合間



壁画制作は順調のようです

適当に揺られたもので、ほぼ形の整った製品になった」とホッと一息。また「歩留まりも93%位で見通しは明るいが、この海が生食海域指定を受けられるかどうか?オイスターバー向けに生食用が出せるようになれば」と表情を引き締めていました。

また、同JFでは洲本市域学連携事業の一環で、京都造形芸術大学と連携して「巨大壁画」鳥飼漁港プロジェクトが進められています。これは漁協事務所の東壁面約100㎡をキャンパスに不死鳥を



美味しいと好評でした

描き、漁村活性化のシンボルにしようというものです。同大学内コンペで第1席に選ばれたデザイン学科女子学生は2月初めから現地に入り、壁画制作に取りかかっています。完成お披露目は3月下旬のことです。試食会当日も、寒風とミゾレ交じりの雨が吹き付けるなか、女子学生6名は高い足場に立って下描きに奮闘していました。彼女たちは焼きガキを試食し、「美味しい」、甘い、などを連発しながら「ここでワインがあれば最高ね!」と若者らしくその場を盛り上げていました。

(文:兵庫県水産振興基金)



# AEDをJF 仮屋荷捌所に設置 使用講習会も併せて開催



荷捌所記帳場に設置しました  
(左から相田部長・岡田組合長)

JF 仮屋（岡田 光司組合長）は3月1日（火）、AED（自動体外型除細動器：Automated External Defibrillator の略）を設置するとともに、「AED使用説明会」を開催し、漁業者ら関係者約30名が参加しました。

今回の設置については、同JF4Hクラブ（相田 欽司部長）のメンバー3名が、1月に海技大 学校で開催された海上安全講習会（既報：拓水No.712）を受講した際、AEDの重要性に気づき、JFへ相談し導入が決まったそうです。この日はまず、相田部長が「AEDは、もしもの時に備えて使用方法を学び、使えるようになって頂きたい」と挨拶した後、業者からAEDを受け取りました。続く、漁協会議室での使用説明会は、(株)カミックス担当者から使用手順、注意事項などの説明が行われ、参加者との活発な意見交換が行われました。終了後、相田部長は「使わないことにしたことはないが、これで少しでも安心して漁業が出来れば」とさげました。

今回の場合、AED本体はリース方式で、メンテナンスなどの維持費は、コカコーラウエストベンディング(株)が設置した自動販売機の売り上げの一部で賄います。県内漁協の荷捌所へのAED設置はあまり例がなく、このような取組みが各浜へと繋がっていくことを期待します。

(文：兵庫県水産振興基金)



人形を使った使用講習の様子

## カキ養殖の先進地視察を行う ～ 摂播・淡路の漁青連が参加～

西播地区で盛んに行われるカキ養殖ですが、近年は他地区でも興味を示す漁業者も多くなってきました。そこで、兵庫県水産振興基金では摂播播磨地区漁業協同組合 青壮年部連合会（大西 正起会長）と淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長）の両部員と行政担当者ら9名で、2月23日（火）・24日（水）の2日間に行ったり大分県中津市と国東市でのカキ養殖に係る先進地視察を行いました。

JF おおいた中津支店では、中津干潟を利用したカキ養殖の手法について学びました。オーストラリアで行われている干潟でのカキ養殖を参考に、同干潟に多数の養殖力ゴを並べた手法で生産し、日本初の干潟の養殖ガキ、ひがた美人」としてブランド化をしています。



ヤンマーマリンファームで餌の培養施設を見学

同支店 本田 哲也支店長は「現在は組合事業として養殖を行っているが、将来は組合員が行う形にしたい。干潟は広大でまだまだ養殖に使える場所

があるので増やしていきたい」と話されました。

国東市のヤンマーマリンファームでは、稚貝とその餌の生産や、漁業者が生産した成貝の販売まで手掛けるこの施設を見学しました。昨年12月から販売を開始した「国東オイスター」は、漁業者・ヤンマーマリンファーム・国東市が連携し取り組み、干潟と沖合との複合養殖を行うなど工夫を凝らしています。また、カキ・海域の検査を何度も行いうことで、「海外で通用する標準的な生食用カキ」を目指しています。説明のほか、国東オイスターの試食や施設見学もあり、参加者はカキの殻や身を注意深く観察したり、写真に収めていました。

(文：兵庫県水産振興基金)



干潟を利用したカキ養殖について理解を深めました  
(写真は国東オイスター)



## 高砂市漁連 海難事故「ゼロ」を目指し講習会開催



漁船の海難防止「ゼロ」を目指して、高砂市漁協連合会(松本力会長)は毎年この時期に「漁船海難防止講習会」を開催し、操業安全指導とライフジャケットの全員着用を呼びかけています。今年も2月2日(火)、高砂市「青年の家」で加古川海上保安署及びJF兵庫漁連から講師を迎えて実施され、JF高砂とJF伊保から組合員約70名が参加しました。

講習会は、同市漁連の高谷 繁喜副会長(JF伊保組合長)が主催者挨拶され、続いて高砂市富田 康雄副市長、佐藤 泰弘統括は系統5団体(JF兵庫漁連、共水連兵庫、内海漁保、豊かな海づくり協会、振興基金)で進めている「命を守る運動」について、漁船事故の実態をふまえ、ライフジャケットの全員着用を強く訴えるとともに、

「桜マーク」のついた検定品ではないと前置きして、JF兵庫漁連が開発した「浮力カップ」の着用が人命保護に繋がった事例などを紹介し、一層の活用を訴えました。講習会は、最後に同市漁連 木村 魏理事(JF高砂荒井支所長)が挨拶され閉会しました。

(文：兵庫県水産振興基金)



# 海難事故をなくそう!

**ライフジャケットを着用しよう!**

自動膨張式ライフジャケットは、定期的なメンテナンスが必要です。なお、着用の際は体にあったサイズを選ぶか、金具等を調整して使用しましょう。

自動膨張式  
ライフジャケット  
モデル：兵庫県漁業信用  
基金協会  
右柳 加奈子さん



**～安全をサポート～  
浮力合羽はお持ちですか?**

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。  
※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



**浮力は十分あり!**

モデル：JF兵庫漁連 福田 美香さん(左)  
兵庫県漁業共済組合 右柳 加奈子さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください



## 都市農業振興研修会を 開催

### JA兵庫中央会

JA兵庫中央会は2月4日(木)、神戸市内で都市農業振興研修会を開き、JA、行政関係者ら約50人が参加しました。

平成27年4月に都市農業振興基本法が制定され、現在、国において、都市農業の振興に関する施策についての基本的な方針等を定める都市農業振興基本計画の策定が進められています。今後、国の基本計画をふまえ、行政とJAらが連携して地方計画の具体的な取り組みを検討するため、都市農業振興の先進的な事例などを学びました。

農林水産省農村振興局農村政策部都市農業室の増井国光室長が、都市農業振興基本計画案について説明し、都市農地の位置付けを従来の「宅地化すべきもの」から「あるべきもの」へと大きく転換していく方針等を示しました。

東京都練馬区の農家で特定非営利活動法人(NPO法人)畑の教室の白石好孝理事長は、農業体験農園について紹介し、「後継者育成や地域での農業への理解につながるだけでなく、低コストで安定収入が得られる。所得面でもメリットがある」などと話しました。

また、JA東京中央会営農農政部の島田幸雄部長が東京の農業概況について、JA全中都市農業対策推進室の藤好浩輔氏がJAグループの都市農業振興について説明しました。



農業体験農園の取り組みについて話す白石理事長

## 新年の決意 新たに ～新春トップセミナー・ 賀詞交換会を開催～

1月9日(土)、兵庫県民会館において「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催し、会員生協の役職員46名が参加。新年の決意を新たにす機会となりました。

新春トップセミナーでは、公益財団法人 生協総合研究所 研究員 藤井 晴夫 様による、高齢社会にむけての地域の力を集めた「地援家族構想」のご講演のあと、NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長、東京家政大学女性未来研究所 所長 樋口 恵子 様を講師に迎え、「2050年超高齢社会のコミュニティ構想について」と題してご講演いただきました。「在宅に施設の安心を、施設に在宅の“自らが主人公である”認識を」「“血縁”を“地縁(地援)”に変える。血縁がなくても、同じ地域に住む人々で支え合い、助け合う“地援家族”に」と話され、会場の参加者は熱心に聴き入りました。

その後、開催された賀詞交換会には兵庫県の消費者行政のご担当の方々にもご参加いただき、ご来賓を代表して兵庫県知事公室長 平野 正幸 様のご挨拶と乾杯のご発声で賑やかに会がスタート。日頃からお世話になっている行政の皆様と会員生協・団体の皆様、それぞれに賀詞交換を通じて交流を深めました。



講演される  
樋口 恵子  
理事長



質疑に聴き入る  
参加者





# 旬に想う

写真と文  
遊方子



## 旬のはなし

◆タイトルの《旬》について考える。今、野菜は何時でも手に入る物が多いが、野菜にも自然な出盛りがあった。それが旬だが、日照や温度を適正管理すれば周年栽培が可能で、夏野菜が冬場に採れ、季節感というものを失った。本来の旬を知らぬ人が多いと思う。江戸時代、栽培法や流通機構・冷凍術は今と雲泥の違いだったため、食材は地域限定・季節限定であった。野菜や魚介類は否応なしに決まった季節に食べ、庶民は長屋住まいだったから、炊飯と味噌汁程度自分で作り、おかずは煮売屋で買い、魚は棒手振りからその場で刺し身を手に入れた。江戸の人は、季節の産物を旬に食べるといふ暮らしを実践していた。

◆現代も季節にしか出回らぬ野菜に、筍や落ノ蓋がある。落ノ蓋は食すれば少し苦いが、それが春の味で、夏は酸味、秋は滋味、冬は甘味を珍重した。此れが「旬の味」である。野菜・果物・魚介類を旬に食べることが、年中行事に則って御馳走であり、喜びに繋がったものだ。魚は脂の乗り切った時が《旬》で、絶妙の味になる。江戸の初め、日本橋河岸の魚市場で「頭を左に腹を手前、進行方向の左側を表身として尊重」と取り決め、表身を傷つけぬよう丁寧に扱った。そして姿形の優れたタイが、丸まる祝い膳を飾り賞味されたものという。

◆水深二百メートル以上の所が深海で、比較的水温が変化しない。ここに住む魚を深海魚といい、食材としてキンメダイやアコウダイが知られ、味は淡泊なものが多い。暗く冷たく高水圧の環境だから、体の一平方センチに21割の水圧がかかり、押し潰されぬよう彼らは体液と肉と骨で支えている。深海魚は目が大きいのが特徴で、大抵は頭部は取除いて販売される。この魚類には食べ頃というものが無い。そのため、冷凍物を何時でも安価で手に入れる事が出来る。深海はまだ未開発の場所が多く、安価で大量に漁獲できる新顔の魚を探しているのが現状だ。深海の魚は小売価格の安定には大いに役立つのである。

◆果物も熱帯・亜熱帯産が輸入されて周年出回っている。バナナやマンゴーなどは四季成り果物とも呼ぶべきもので《旬》が無い。国内産の果物も、稀少価値を狙って少しでも早く収穫して高値で売ろうと、殆んどがハウス栽培を可能としている。それに相応しい品種改良もあり周年供給を可能なら露地採りの生鮮物に軍配が挙がる。野菜として分類される苺やメロン・西瓜も、露地もの出回り期に本来の善さがあり最高に旨い。それらは「真の旬」に購ってこそ、美味しいといえるのだと思う。

## 大輪田塾だより

### 2月講座「浜の活力再生」と、第19回山田記念賞に出席



船橋講師の講義風景

2月講座は、16日(火)に「浜の活力再生」季節を愉しみ風土に生きる」がありました。

講師には元日本赤十字社スリランカ代表部主席代表の早稲田大学 船橋智博士を迎え、セネガル・スリランカなどで地域再生に携ってこられた経験から、「浜の活力再生」について話がありました。

船橋講師は「文明が文化を駆逐している」と自論を展開され、「グローバルな流通形態が生産から加工・流通まで担うことで、地域が崩壊していった。地域再生には、その土地で生きる住民が自らの文化・風土を尊重した地域社会を築くことが必要」と締めくくられました。

また、19日(金)に行われた「第19回山田記念賞表彰式・祝賀会」には、11月に入塾した11期生が出席し、来賓出席された兵庫県 井戸 敏三知事をはじめ漁協系統関係者らの前で挨拶をおこない、抱負を述べました。



第19回山田記念賞で挨拶をする11期生



井戸知事との記念撮影